

# The Akita University Post



AUPブログ  
開設しました

Monday, June 28, 2010 第13号



発行 AUP 秋田大学報道局  
主筆 鎌田美咲  
編集デスク 工藤翔吾



## 秋大が誇る名物研究

### 歩行環境シミュレータが交通事故を減らす

秋大名物研究

秋田大学工学資源学部電気電子工学科鈴木研究室で行われている歩行環境シミュレータについての研究は、以前にもたびたび各放送局でも紹介されるほどの秋大名物研究だ。

突だ。

この研究は鈴木研究室が吉村研究室だったところから続けられていて、もともとは当時教授だった吉村昇学長の「秋田県の特徴ある研究をしたい」という思いから始まった。その考えに深く共感したのが鈴木研究室に所属する水戸部一孝准教授だった。

戸部一孝准教授だった。

高齢社会の秋田に歩行環境シミュレータ

そして水戸部准教授は秋田県が高齢社会であるという観点から、高齢者が道路を横断する際にどのような行動をとるかシミュレーションによって擬似的に再現するという方法を考案し、現在の歩行環境シミュレータが開発された。このシミュレーションで得られたデータを生体工学を用いて分析することによって、事故の原因を客観的に解明し啓発につなげようという

のが、この歩行環境シミュレータの重要な社会に対する意義だ。

リアルな歩行感覚と迫る車の臨場感

シミュレータは縦一・五メートル、横一・九メートルの大型スクリーン3面と液晶プロジェクタ、そして実際の路面を投影するための鏡が一枚、ランニングマシンで構成されている。ランニングマシンの上を歩くことにより、実際の道路を横断している状況を再現できるようなっている。実際にシミュレータを体験した人はあかかも横断歩道を本当に渡っているような感覚と臨場感を味わうことができる。

広がりをみせる研究の成果

現在、歩行環境シミュレータは株式会社エーピーアイと共同開発により「わたりジョーズ君」という名前で作品として売り出されている。そしてすでに大分県警などによって現場にも取り入れられている。その結果大分では実際に交通事故が減ったとの報告もあるという。

今後の活躍に期待

近年、日本国内で起こる交通事故は、減少傾向にあるという。しかしそれでもまだ交通事故の件数は非常に多く、被害総額は年間3兆円を超えるという。その中でも高齢者の交通事故の割合は非常に高くひとつの社会問題になっている。そこで歩行環境シミュレータを用いて得られたデータを今後どのように社会に役立てられていくのか、非常に楽しみである。

(工藤翔吾)



AKITA UNIV. PRESS

「初心忘るべからず」初めのころの謙虚で真剣な気持ちを忘れてはならないという意味だ。何事も慣れてくると、ついつい慢心や怠け心が顔をだす。大学も残り半分をきり、遅刻も自主休講も板に付いた我が身には少々耳の痛い言葉である。

初めのころは何もかも新鮮で、やりたいこと興味のあることが沢山あった。ただ、やっていくうちに楽しいだけじゃないことを知った。気づくと付随する責任や忙しさに、いつのまにか「やりたかったこと」を「やらなくてはいけないこと」、「やらされていること」としてやっている自分になっていた。

やりたいことだけやればいい。それはこのうえなく魅力的だし、精神衛生上とてもよいことのように思われる。けれど現実問題そうもいってられない。なにをやりにしても、それなりに面倒なことのひとつやふたつでくくるものだ。やりたいことだけやる、というのもなかなか難しい。

では、視点を変えてみるかどうか。初心にもどって振り返ってみれば確かにやりたいと思っていた自分がいる。今やっていることは誰にやらされてやるわけでもなく、自分でやりたいとやっていることなのだと思える。

「初心忘るべからず」初めのころの謙虚で真剣な気持ちを忘れてはならない。なににより自分が好きで始めたことなら、その気持ちを失くしてしまふのは哀しい。やらされるより自ら望んでやるほうがずっと気分がいいし、楽しい。何度思いだしても時がたつと忘れてしまいがちなこの「初心」。時には立ち止まって、我が身を振り返り初心に戻るこの大切さを感じた。

(菅原成美)

歩行環境シミュレータ





# 私たちの願いを 明るい未来を 一票に託そう

秋大に眠る数多くの無党派票。選挙権を持っているだけにとどめてほしくない  
と心から願っています。AUPに候補者の紹介をすることで新聞を普段読まない  
人にも政策の一部でも知ってもらえたらと思っています。

またなぜ若者の政治離れが深刻化してしまうのかを今回取材にいったAUP記  
者3人で対談しながら、私たちが政治に関心を持つ重要性にも触れて考えを深め  
ました。共感して頂いたり、何か感じて頂けたら幸いです。

(候補者の掲載は届け出順)

## AUP記者 3名が対談 『若者の政治離れ』

**みさき** 今世間では若者の政治離れが叫ばれているよね。こ  
の前後友達に参院選は誰がいいかななんて話題にしたら、候  
補者の名前を一人も知らなくてびっくりしたなあ。

**まり** でも仕方ないよね。新聞読まないし、バイトとか学校  
の勉強でテレビも見なくなったし。

**みさき** 携帯サイト『ツイッター』を利用する政治家が増え  
てきたよね。わかりやすくして気軽なものが若者のスタイルに  
マッチすると思うな。

**さだあき** 僕はテレビのニュースをよく見るけど、政治家の  
汚い部分ばかりしか目に入ってこないから政治自体に不信感  
があるなあ。そんな人たちの政策うんぬんに興味を持ってない  
のも当然な気がする。

**みさき** 『政治とカネ』の問題だよ。うんざりしてしまうよ  
ね。そういう人が全部じゃないのだから思うけどね。  
参院選候補者の方の話を聞いてみたけど、あまり政治の知  
識が無い私でも面白いと思えたのが嬉しかったなあ。

**まり** 話ちよつと変わるけど秋田大学って県外からやってき  
た人が多いよね。『秋田に住んでいるのに本籍が秋田じゃないか  
ら、秋田での投票が難しい』って残念がってる友達もいたよ。  
せつかく投票したいと思ってるのにもどかしいね。

**さだあき** もっと選挙の投票方法が柔軟だったらいいですね。

**みさき** 私たちまだ学生だから納めている税金といえば消費  
税ぐらい。あと免除申請してない人は国民年金か。社会人に  
なると税金を沢山納めるようになったら自然と変わるんじゃ  
ないかな。今はどこかで他人事だと思ってるのかも。

**まり** だけど私たちが社会人になったときの日本の制度は、  
今私たちが選ぶとする政党、国会議員が造るものなんじゃ  
ないかなあ。そしたら政治に関心がないことって、選挙に出  
馬する人のことを知らないで投票することって私たちにとつ  
て大きな損にもなりかねないんじゃないかな。

**さだあき** そうですね。私も自分に近い考えを持った人にい  
つか投票したいと思います。私はまだ選挙権がないもので  
笑

## 石井ひろお さん



石井ひろお事務所にて約束の  
時間より早めに着くと外回り  
のお仕事で石井さんの姿はな  
かったが、いきいきと働くス  
タッフの方々が印象的だっ  
た。ずいぶん明るい事務所だ  
なあと感じたのは日が差し込  
めていたからではないだろ  
う。

「生まれ育った秋田に恩返  
ししたい。希望を持てる社会  
に」と経済問題から一人ひと  
りの生涯設計に至るまで幅広  
く話した。

自殺率が全国で第1位の  
秋田の課題は地域との結びつ  
き不足と捉え、地域との関わ  
りの重要性を訴えた。「スポー  
ツを通して地域との交流の場  
を作り、人々がいきがいを持  
てるまちづくりをしたい」と  
と語った。

元プロ野球選手という華麗  
な経歴を持つ傍らで株式会社  
H・Iグループ代表取締役と  
して会社経営にも尽力してき  
た。そこで培った経験と人脈  
を使って秋田の活性化に役立  
てたいと話す。また法人税の  
高さが企業の自由な発展を妨  
げていると指摘。さらに農業  
に対しては今後の課題を食品  
加工業の乏しさと宣伝力不足  
と位置付け改善の必要性を説  
いた。

(鎌田 美咲)



## ふじた和久 さん



山王にある選挙事務所。  
ドアを開けると、スタッフの  
皆さんが暖かく迎えてくれ  
た。

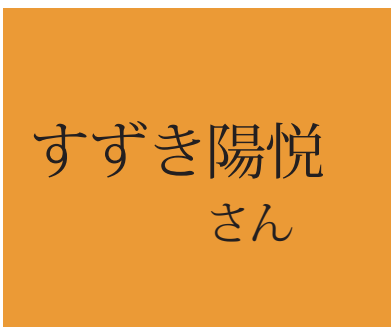
取材は、終始楽しい雰囲気  
で行われたが、秋田の今後を  
語る際に時折見せる、陽悦さ  
んの真剣な表情は深く印象に  
残った。

現職国会議員の陽悦さんは  
今回が二度目の立候補。これ  
までの6年間の実績に触れ  
「今こそ経験を力に！」と地  
域再生に向けての独自の政治  
構想を熱く語った。

秋田県は独自の食農観が  
現存するのにも関わらず、そ  
れを産業ブランドと全国に広  
げようとする力が他県に比べ  
まだまだ弱い。そこで特産物  
の特許取得の強化など、秋田  
のパワーを全国へ発信したい  
と話す。

また、地域の資源を地域  
が「生かす」、地域に生まれ  
た人々自身が地域を生かすと  
いう意味での「地産地生」で  
秋田を元気にしたいと主張し  
た。

(小坂 麻理)



## 7月11日は 取材を終えて 投票に行こう！

若者の政治離れから  
若者に身近な政治へ

日本共産党の大曲事務所  
広い事務所の奥の部屋で、ふ  
じた和久さんはひとりパソコ  
ンに向かって仕事をしてい  
た。

取材の直前まで遊説をして  
いて疲れきっていたはずだっ  
たのに、快く取材を受けてく  
れた。

「今までの構造改革で、農  
林水産業・個人商店・中小企  
業が軒並みダメになった。そ  
の代わり大企業のお金持ちが  
有利になって、金あるところ  
に金が来るようになった。そ  
れっておかしいよね」とふじ  
たさんは言う。

財界が政治と癒着してきた  
ため、今の日本経済はまさ  
に「カジノ資本主義」になっ  
たと考えている。日本の法人  
所得税と社会保障費・労働保  
険費の割合や失業者の生活保  
障などが、欧州に比べて企業  
有利な仕組みであり、今後国  
が法人税の税率を下げる代わ  
りに消費税を増税する風潮が  
あることに危機感を抱いてい  
る。

また、本業の傍ら地域労働  
の役員・局長を務めていたこ  
ともあって、それがきっかけ  
で旧大曲市時代の議会議員に  
当選し、市民のために政治活  
動していた。

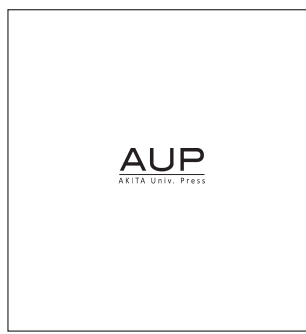
(佐藤 禎晃)



近年若者の政治離れがさ  
げばれている。中でも二十代  
前半の投票率の低下は、若い  
世代の政治への意識の低下を  
表しているとして憂慮されて  
いる。投票は身近な参政であ  
り、政治への意思表示だ。次  
の世代を担う若者の声が政治  
に反映されないというのは、  
なによりその機会を若者自ら  
捨ててしまおうというのは、深  
刻な問題である。私も近年の  
若者の一人として真剣に考え  
なければならぬと感じてい  
る。

最近、期日前投票所が  
秋田駅や御所野にあるイオン  
モール秋田に設置されるな  
ど、有権者にとってより投票  
の機会が増えるようにと取組  
がなされている。

今回の参院選でも7月3  
日から10日までの期間同所に



設置される予定だ。有権者は  
もちろんそうでない人も、秋  
田に住んでいる以上今後の秋  
田の政治について決して無関  
係とはいえない。

いま、学生のように若い  
世代が選挙に秋田の政治に自  
ら参加することが強く求めら  
れている。今度の参院選の候  
補者ほどのような人で秋田に  
ついてどのような想いを持っ  
ているのか私の答えを出した  
い。

**まり** 「秋田駅には何もなし、友達も就職や進学で県外に  
いっちゃうしまらない」といつも思っていた。思っている  
だけでは何も始まらない。秋田が良くなってほしいという想  
いを誰かにしっかりと託さなければと思う。今回の参院選  
誰に一票を投じるか吟味したい。

**さだあき** 私はずっと政治は何か事務的な作業の繰り返し  
と想っていた。でも取材を通して政治家にも感情があつて、  
理屈じゃないものを感じた。私はまだ未成年で有権者ではな  
いけど、選挙権を持ったらどんな形でも投票に行きたいと思  
う。でなければ一生懸命私たちに訴えかける候補者に失礼だ  
と思った。



# 日赤跡地、にぎわい交流館へ

## 中通り地区、再開発

秋田市の中心地、中通一丁目。学校やビル、秋田キャッスルホテルなどが立ち並ぶこの一角に、ぼつかりと口をあけたように更地が広がっている。ここは秋田赤十字病院が建っていた場所だ。施設の老朽化や狭隘化が問題となり、平成10年7月をもって秋田市郊外に病院は移転、今の更地となった。



新しく生まれ変わる日赤跡地（中通りにて）

「学生が利用するのに、小難しいことは言いたくないね」と、将来像を語ってく

平成24年4月、秋田赤十字病院跡地に新県立美術館、商業施設、マンションなどのさまざまな機能をあわせ持つ施設が誕生することになった。

その中で、秋田市が世代を超えた文化交流の拠点として展開するのが「にぎわい交流館(仮)」である。この建物は全4階建てで、写真・映像・絵画・工芸などの展示ができるホール、県内トップクラスの防音設備を誇る多目的室、ホール、自分で映像を加工することのできる映像工房を備える予定だ。

「学生が利用するのに、小難しいことは言いたくないね」と、将来像を語ってく

また、秋大混声合唱団A Choir、田所事務局長は「オケストラとのセッションも可能だし、曲によってはダンスも取り入れているので、他の芸術との交流は難しくないと話した。

「閉館時間を23時30分までにしたり、バンドの皆さんにはお酒やケータリングを出せるようにパントリーを設けることにしています。コミュニケーションサロンでは、わざわざハローワークに行かなくても就活支援を受けられるようになりまし、我々もできるだけニーズに対応するようにずっと努力しています」と石郷岡さんは言う。一同組合の高橋一広理事長も石郷岡さんも「この事業全体が、『可能性の種』になってくれれば」と話す。

また、「それぞれの設備の利用料金は、できるだけ安く設定したいと思っています。それに、1階は基本的に無料です。だから学生さんには利用しやすいのではないかと思います」と語った。

軽音楽系サークルPLAYMSSの遠藤部長は「今までの場所代が一番安かったのは、一人当たり千五百〜二千円だったので、それより安ければ嬉しい」と語った。

# 夢追い人

今年度も秋大は1347名の新生を迎えた。50名の新生に「なぜ秋大を志望したか」と問うと「レベルにあった大学だから」「県内出身だから」と答えた学生が大半を占めた。少数ではあるが中には「教師になりたい」「医師になりたい」など夢を語る学生の姿もあった。(調査 川村巴)



パプアニューギニア出身のポールさん

その際、パプアの豊富な資源や淡水を、近隣国であるオーストラリアにパイプラインで送れないかと考えた。産業で成長していこうとするオーストラリアに、天然ガスの供給や水不足の解消を、パプアとのパイプラインを作ることによって実現できると彼は言う。そしてパプア経済の発展に力になることが、彼の目標だ。

仕事をやめて秋田大学工学資源学部に入学を決意したのも、さらに地質学の道を究め、母国に貢献したいとの希望からである。そんな彼の夢は「政治家」になること。彼が将来、パプアニューギニアの経済を、どう変えていくのかに期待したい。

秋大生にとって秋大が夢を実現させる場所、見つける場所になっていくことを心から願う。

(鎌田 美咲)

彼は以前、母国パプアで地質学者として働く社会人であった。彼は一九九八年に世界中の海洋底や地球環境史の科学解明を目的とする国際深海掘削計画(ODP)に参加し、母国パプアの海を、ドイツ、日本などの世界の船に乗って調査した。

森見作品は、ファンタジー要素が強いといわれ、本作でも現代の京都の町並みや生活感をかき消すことなく、あり得もしないようなアイデアを盛り込んでいる。しかしそれが妙にリアルで、実際に起きてくる事のように思えてしまう。

彼の素晴らしい世界観で描かれた京都の街に、是非この作品で紛れ込んでもらいたい。

(佐藤 慎晃)

## AUP通信

AUPの記者たちが毎回お届けする、オススメレポート。居酒屋、雑貨屋、本、など幅広く紹介するコーナー。

森見登美彦の二〇〇九年の作品「宵山万華鏡」を紹介したい。皆さんには同作者の作品として、第20回山本周五郎賞受賞作「夜は短し歩けよ乙女」や、今年4月にフジテレビ系列でアニメ化された「四畳半神話大系」がおなじみではないだろうか。

「宵山万華鏡」は、祇園祭宵山の日の京都を舞台に6つのストーリーで構成されている。

6つのストーリーの、6人の主人公たちが同じ時間軸上で錯綜しながら「宵山」の1日を駆け抜けていく。各話ホラーだったり、ファンタジー満載だったり、ハチャメチャだったり、口当たりの違うストーリーたちが、それぞれを補完し合っていて1冊の本ができていく。





### AUP Photo Library.



花、咲き乱れる 太平山 (報道班 鎌田 美咲)

# 秋大に新施設が仲間入り

この春、秋田大学の手形キャンパスに3つの新しい施設が誕生した。それは秋田大学の総合案内窓口として新しい守衛室も兼ねるインフォメーションセンター、学生へのワンストップサービスを行う学生支援棟、県内の産業活性化の拠点となるベンチャーインキュベーションセンターの3つの施設である。



インフォメーションセンター

## インフォメーションセンター

正門の横に堂々と建つインフォメーションセンター。ここは秋田大学の教育、研究の取り組みや、秋田大学出身の有名・著名な人物の業績等を紹介する施設である。

また映像シアター及び多目的ホールもついていて、小規模なイベントなども行える施設となっている。今は、常設展示コーナーとして秋田大学出身の音楽家「成田為三」と作家の「南木佳士」が紹介されている。

今までは学生は教務関係で何かあれば、一般教育1号館の2階の教育推進課に、学生支援関係での相談は学生支援課に行かなければならなかった。しかしこの施設はこの2つの課がある場所を統合し学生が一度に用を足せるよう



学生支援棟

## 学生支援棟

地域に根ざした新たな起業を目指し、企業・大学等行政の産学官一体となった共同研究拠点の整備を目的とした施設で秋田県内の科学的人材の強化と高能力化や秋田大学発の企業化研究を目指す

にしたものである。(これをワンストップサービス化と言う) また2階部分は自習スペースになっていて自分のパソコンを持ち込めばインターネットも使える。また英語を自習できるスペースもあり大学の英語教育に対する熱意が伺える。さらにこの施設は、総合情報処理センターともつながっていて学生支援棟との共用が可能になっている。そしていずれは図書館ともつながる構想があるという。

## ベンチャーインキュベーションセンター



ベンチャーインキュベーションセンター

今はまだであるがこの施設が使えるようになれば1階は全て地域に開放され学外の人間でも自由に研究が行えるスペースになる。また2階は産学官共同研究テーマの実施拠点として使用される。そして今後も秋田大学は様々な変化が予想される。それとともに学生たちのキャンパスライフもより充実していくことだろう。(工藤翔吾)

## AUP INFORMATION

### 秋田大学・留学生展の開催

世界各国から秋田大学に集まった留学生の写真や民族衣装等を中心とした企画展

日時：6/21(月)～6/30(水) 10:30～17:00

場所：インフォメーションセンター(秋田大学手形キャンパス) 【問い合わせ先】 秋田大学企画広報課 TEL：018-889-3019/FAX：018-889-2219 E-mail：kouhou@jimu.akita-ac.jp

### 秋田大学講演会 『「はやぶさ」小惑星の秘密に挑んだ7年の旅』を開催

日時：7/13(火) 18:00～19:30

会場：秋田大学60周年記念ホール 講師：JAXA宇宙航空研究開発機構 川口 淳一郎 教授 受講料：無料 募集人員：250人(一般市民、小・中・高校生の皆様) 【申し込み先】 秋田大学社会貢献推進室 電話：018-889-2270/FAX：018-889-3162 e-mail：shakoken@jimu.akita-u.ac.jp

## 秋大祭実行委員募集

現在、活動メンバーは11人。今年の秋大祭は10月23日、24日。年次を問わず新入部員を募集中です。

秋大祭で行いたい企画も募集中です。ご意見、ご質問は下山まで。連絡先 090-6253-8955

7月10日、7月祭を開催。時間：10:00～17:30

ミスコンの出場者を募集しています。少しでも興味のある方のご一報お待ちしております。

### 編集後記

今年度から主筆を任せられた鎌田です。若輩者ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。

前主筆、前編集アシスタックが卒業して3ヶ月あまり。AUPに新しいメンバーが加わりました。人とは違う角度から物事を捉えられるタイプで、大変期待しています。

今回のAUPでは参院選に向けて、秋田県から出馬した3名の政治家の方へ取材する機会を

得ました。多忙なスケジュールの中で私たちがのためにお時間を作って頂いたこと本当に感謝しています。また未熟者の私たちの疑問に真剣に丁寧に答えてくださりAUP一同大変嬉しく思っています。ありがとうございました。

今後はさらに多くの人や出来事に敏感になって、さまざまなことにチャレンジしたいと思います。

(鎌田 美咲)



教習料金・検定料金・宿泊3食費込み 宿舎も市街地にあり便利です。

お申し込み、お問い合わせはお得な生協で！！

山形・県南自動車学校 携帯HP 0120-322-166

